

事務連絡

令和5年1月18日

公益社団法人日本動物用医薬品協会
会員各位

公益社団法人日本動物用医薬品協会
事務局

新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌の令和4年度発生状況について

平素より協会事業にご理解とご支援を賜り、御礼申し上げます。

さて、標記のことについて、以下及び別添のとおり、水産防疫班より連絡がありましたので、お知らせします。

新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌の発生状況等につきまして、昨年9月末までの調査結果を農林水産省HPに掲載しておりましたが、新たに、11月15日までの本疾病の発生状況（8頁と9頁）を更新いたしました。

URL：https://www.maff.go.jp/j/syouan/suisan/suisan_yobo/attach/pdf/index-38.pdf

更新にあたり、9頁の抗菌剤の効果において、以下の2点を追記修正いたしました。

① 抗菌剤の投与効果の表について、「低い・効果無」を「低い」、「効果無」の2項目へ分離し、「低い」について注釈を追記

修正理由：投与効果が「低い」について、効果無と誤解することを防ぐため

② 抗菌剤の効果持続期間について、最頻値（報告が多いのは〇日）を追記

(写)

4 消 安 第 1333 号

令 和 4 年 6 月 9 日

都道府県 農林水産部長 殿

農林水産省消費・安全局

畜水産安全管理課長

新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌に関する令和3年度調査の結果報告
及び令和4年度調査依頼について

日頃から、水産防疫の推進に御協力いただき感謝申し上げます。

α 溶血性レンサ球菌症については、令和3年に、従来の血清型別分類（I型及びII型）には明確に当てはまらない新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌の発生が報告されたため、関係府県の協力を得て、令和3年度における本菌株の発生状況等について調査を行いました。

この度、調査結果を別紙1のとおり取りまとめましたので御報告いたします。令和3年度の本調査を通じて、本菌株がシマアジ、カンパチ及びイサキにおいて発生したこと並びに既承認ワクチンではカンパチにおいて効果が低い可能性があることに関する情報が寄せられています。また、ブリについては、症状等から本菌株の疑いがあるものの、菌株が保存されていなかったために検査による確定診断ができなかった症例がありました。本調査への御協力ありがとうございました。

本疾病への的確な対応のためには、本菌株に関する更なる情報収集が必要であることから、農林水産省では令和4年度の本菌株の発生状況や魚種ごとの被害の程度、ワクチンの効果等について調査を行うことといたしました。令和4年11月15日（火）までに検査により本菌株の感染が確定した場合、別紙2の報告書により、令和4年12月1日（木）までに水産安全室に情報提供いただきますようお願いいたします。

なお、検査については、宮崎大学魚類感染症学研究室又は水産技術研究所病理部から検査方法に関する情報の提供を受け、各都道府県において実施いただくようお願いいたします。そのような対応が困難な場合には、宮崎大学魚類感染症学研究室又は水産技術研究所病理部に御相談ください。

また、別紙3のとおり養殖業者に対する周知用のチラシを作成しました。本菌株の流行について注意喚起を行うとともに、本菌株が疑われる症例を速やかに水産試験場等に報告、相談するように御指導いただきますよう、併せてお願いいたします。

新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌に関する令和3年度調査結果

1. 背景及び目的

- ・ α 溶血性レンサ球菌症については、令和3年秋頃から、従来の血清型別分類（I型及びII型）には明確に当てはまらない、新たな型と思われる菌株の発生に関する情報が、複数箇所から提供された。
- ・当該菌株は病原性が強く、現在承認されているレンサ球菌症用のワクチンでは十分な効果が得られない可能性が指摘されているが、全体として情報が不足している。
- ・このため、農林水産省は、当該菌株の令和4年度の流行への対策を講ずるため、令和3年度における発生状況等について調査を実施した。

2. 調査方法

- ・対象疾病：令和3年秋に報告を受けた、新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌を原因菌とする疾病。調査開始時点では診断方法が確立されていなかったため、発生した症例の特徴（①既承認ワクチン等による予防効果が低い、②抗血清凝集試験で凝集しにくい）が見られた症例を調査対象とした。
- ・対象魚種：ブリ類、シマアジ、クロマグロ、ヒラメ及びフグ類（水産防疫対策事業で実施した魚病被害状況調査において、2017年～2019年に α 溶血性レンサ球菌によるレンサ球菌症被害が確認された魚種のうち、令和元年漁業・養殖業生産統計において「その他の魚類」に分類された魚種を除いたもの）。
- ・対象地域：令和元年漁業・養殖業生産統計において上記対象魚種の生産実績がある20府県（以下「府県」を「県」という。）。
- ・方法：調査は2段階に分けて行った。
1次調査は、調査対象県を絞り込むため、ワクチンの効果や試験結果の概要についての情報収集を目的として、調査対象県へアンケートへの回答を依頼した。
追加調査は、1次調査の結果から当該菌株の発生が疑われる県又は当該菌株の発生が否定できなかった県に対して、発生場所や魚種等の詳細事項についての情報収集を目的として、アンケートへの回答を依頼した。

3. 調査項目及び結果

(1) 1次調査

ア 調査項目

調査対象とした20県の魚病担当部局にアンケートを発出。令和3年4月1日から12月31日までの期間に、県内で「 α 溶血性レンサ球菌症」と診断された病魚について、以下の事項に対する該当の有無を調査した。

(1) II型レンサ球菌症用ワクチンの複数回接種やアジュバント入りワクチン（ピシバック注5oil）の接種等、養殖場において十分な予防対策を講じていたにもかかわらず、他の水域や養殖場と比較してワクチンの効果が低かったもの

- (2) 抗血清凝集試験の結果が、I型・II型いずれの抗血清に対しても凝集しなかったもの又は他の α 溶血性レンサ球菌株での抗血清凝集試験の結果と比べて凝集の程度が判断しにくかったもの
- (3) 「 α 溶血性レンサ球菌症」又は「I型 α 溶血性レンサ球菌症」と判別したものの、抗血清凝集試験による血清型の判別を実施していなかったもの
- ※すべて [あり、なし、現時点で不明] の3択で回答を依頼した。

イ 調査結果

① 単純集計の結果は以下のとおり (n=20、単位：県)

	該当 (あり)	非該当 (なし)	現時点で不明
(1) ワクチンの効果が低かった	2	12	6
(2) 血清が凝集しにくかった	7	10	3
(3) 血清型が未判別	5	13	2

- ② (1) が「あり」であったのは2県、(2) が「あり」であったのは7県、(1) と(2) のいずれか又は両方の回答が「あり」であったのは8県であった。
- ③ ②に該当しなかった県のうち、(3) が「あり」又は(1)～(3) のいずれかが「現時点では不明」であったのは6県であった。
- ④ いずれの質問も「なし」であったのは6県であった。

(2) 追加調査

1次調査において、いずれの質問も「なし」であった6県を除く14県(当該菌株の発生が疑われた8県+発生が否定できなかった6県=14県)に対して、詳細事項を追加調査した。

ア 調査項目

場所(湾、水域等)、魚種、PCR検査及び抗血清凝集試験の結果、他の水域や養殖場と比較した被害状況(重症度、感染数、鎮静化から再感染までの期間)、現時点での残存菌株の有無、宮崎大学等への検査依頼の有無 等

イ 調査結果

- ① 当該菌株の発生が疑われたのは、8県12か所(22経営体)(表参照)であった。
- ② 当該菌株の発生が疑われた魚種は、シマアジが6県8か所(11経営体)と最も多く、次いでカンパチが1県3か所(9経営体)と多かった。ブリは2県3か所(3経営体)、クロマグロは1県1か所(2経営体)、イサキが1県1か所(1経営体)であった。
- ③ PCR検査を実施していたのは3県5か所(11経営体)であった。PCR検査を実施していない事例では、症状、菌分離や顕微鏡検査で診断されていた。
- ④ 当該菌株が水産試験場等で保存されているのは5県8か所(14経営体)であった。これらについて宮崎大学等にて検査を行ったところ、そのうち4県6か所(12経営体)において新たな型と思われる株が確認された(魚種はシマアジ、カンパチ、イサキ)。

表：調査で当該菌株の発生が疑われた魚種等

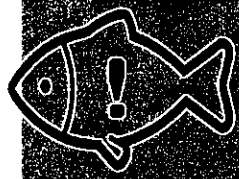
魚種	県数	箇所数	経営体数
シマアジ	6	8	11
カンパチ	1	3	9
ブリ	2	3	3
クロマグロ	1	1	2
イサキ	1	1	1

新たな型と思われるα溶血性レンサ球菌に関する報告書

(別紙2)

基本情報				被害状況				ワクチンに関する情報				抗菌剤に関する情報				薬剤試験結果		検査機関
検査日	発生水域/ 所属施設	養殖業者名	魚種	種苗の導入元	へい死率	被害量 (kg)	被害額 (千円)	投与の有無	薬剤名	効果	持続期間	使用抗菌剤	効果	抗菌剤投与後から 重症症までの期間	I型	II型		
●●県	●●漁協	●●水産	カンパチ	●●水産	約6割	500	1000	有	ピシバック注50ml	短い	6~8か月	①エリスロマイシン ②キキゲンサイクリン	①効果が悪い ②効果が短い	①浮きなし ②15日間	(-)	(-)	●●水産試験場	

※記入が困難な場合には空欄でも構いません。



新たな型と思われるレンサ球菌が国内で発生しています!

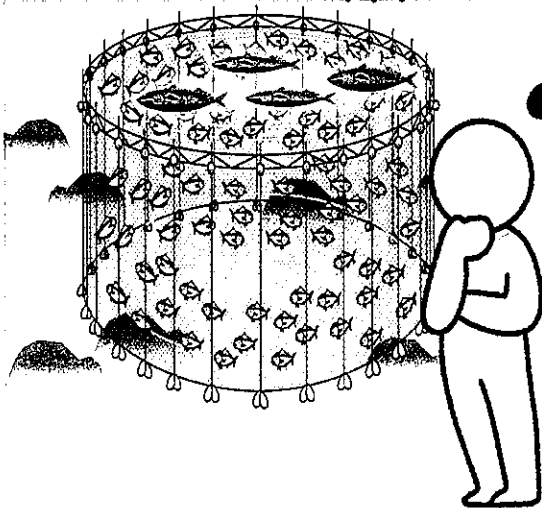
令和3年度に国内のカンパチやシマアジ等から、これまでのI型やII型とは異なる新たな型と思われるレンサ球菌の発生が報告されました。

このレンサ球菌症については、以下のような情報が寄せられています。



- ・既承認ワクチンは効果が低い可能性 (カンパチ)
- ・抗菌剤は効く (塩酸リンコマイシンは効かない)
- ・重症度が高い (シマアジ、カンパチ、ブリ)

新たな型のレンサ球菌が疑われた場合には速やかに水産試験場へ報告・相談しましょう!

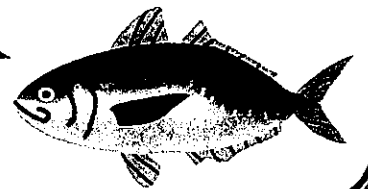


最近、ワクチンの効きが弱くなった?

これまでのレンサ球菌と症状が違う?

これまでよりも死亡する魚が増えた?

すぐに対応を!



農林水産省では、新たな型のレンサ球菌について調査を行っているので、ご協力をお願いいたします。

(参考) レンサ球菌症を対象疾病とする水産用抗菌剤

抗菌剤の系統及び成分名	製剤名	製造販売業者(製薬メーカー)
テトラサイクリン系		
アルキルトリメチル アンモニウムカルシウム オキシテトラサイクリン (QTC)	水産用QTC10%散「KS」	共立製薬株式会社
	水産用QTC20%散「KS」	
	水産用OTC-Q散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所
	水産用OTC-Q散「TG」20%	
	水産用QTC20%「バイオ」	バイオ科学株式会社
	水産用アクアトップ-100	ピーヴィージー・ジャパン有限会社
	水産用アクアトップ-200	
水産用OTC-Q200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社	
塩酸ドキシサイクリン (DOX)	水産用ドキシサイクリン5%「バイオ」	バイオ科学株式会社
	水産用ドキシサイクリン20%「バイオ」	
マクロライド系		
エリスロマイシン (EM)	水産用エリスロマイシン5倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社
	水産用エリスロマイシン20%散「KS」	共立製薬株式会社
	水産用エリスロマイシン散「コーキン」	コーキン化学株式会社
	水産用エリスロマイシン散「コーキン」200	
	水産用エリスロマイシン散100W	
	水産用エリスロマイシン散200W	
	エリスロ・100	株式会社東理
	水産用エリスロマイシン散「TG」	株式会社トーヨー技術研究所
	水産用エリスロマイシン散「TG」20%	
	水産用エリスロマイシン散「TG」40%	
	水産用エリスロマイシン散「TG」白10%	
	水産用エリスロマイシン散「TG」白20%	
	水産用エリスロマイシン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社
	水産用エリスロ100「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
水産用エリスロ200「リケン」		
リンコマイシン系		
塩酸リンコマイシン (LCM)	水産用リンコマイシン5倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社
	水産用リンコマイシン10%散「KS」	共立製薬株式会社
	水産用リンコマイシン20%散「KS」	
	水産用リンコマイシン散「コーキン」	コーキン化学株式会社
	水産用リンコマイシン散「コーキン」200	
	水産用リンコマイシン散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所
	水産用リンコマイシン散「TG」20%	
	水産用リンコマイシン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社
水産用リンコマイシン200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社	
チアンフェニコール系		
フロルフェニコール (FF)	アクアフェン	MSDアニマルヘルス株式会社
	アクアフェンL	
	水産用フロルフェニコール2%液「KS」	共立製薬株式会社
	水産用フロルフェニコール「コーキン」	コーキン化学株式会社
	水産用バシックスFf25「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
水産用フロルフェニコール25「リケン」		

新たな型と思われる α 溶血性レンサ球菌に関する調査結果（令和4年度速報値）
【令和4年度における発生状況】

5月

魚種	件数
カンパチ	1

6月

魚種	件数
カンパチ	5
シマアジ	2
ウマヅラハギ	2

7月

魚種	件数
ブリ	2
カンパチ	2
シマアジ	5

8月

魚種	件数
ブリ	8
カンパチ	16
シマアジ	18

9月

魚種	件数
ブリ	2
カンパチ	1
シマアジ	21
ヒラメ	1
マアジ	5

10月

魚種	件数
ブリ	1
カンパチ	1
シマアジ	21
マアジ	7

11月（15日まで）

魚種	件数
シマアジ	5

新たな型と思われるα溶血性レンサ球菌に関する調査結果（令和4年度速報値）

発生事業者数等に関する情報

- ・ 県への聞き取りによると、他の疾病と比較して、再発までの間隔が短いとの情報がある。
- ・ 同一業者内で複数魚種に感染が広がった事例が報告されている。

総報告件数	総事業者数	同一魚種にて複数回発生している業者数	複数魚種にて発生している業者数
126	48	31	11

ワクチンの効果

- ・ 既承認ワクチンは新たな型と思われるレンサ球菌に対し効果が低い可能性がある。

ワクチン名	使用件数	接種効果		
		高い・効果有	低い・効果無	不明・記載無
ノルボックス PLV3 種 oil	1	0	1	0
ピシバック注4	7	0	4	3
ピシバック注5oil	42	1	28	13
ピシバック注レンサα2	4	0	4	0
マリンジェンナーイリドビブレン3混	1	0	1	0

抗菌剤の効果

- ・ エリスロマイシンでは、効果が高い場合と低い場合がある。
- ・ テトラサイクリン系製剤では、効果が高い場合と低い場合がある。
- ・ 都道府県以外の機関による薬剤感受性試験の結果から、リンコマイシン耐性菌が多く報告されている。
- ・ 以上から、できる限り薬剤感受性試験を行い、使用する抗菌剤を選択することが推奨される。

抗菌剤名	使用件数	投与効果			
		高い・効果有	低い※	効果無	不明・記載無
エリスロマイシン	106	27	53	0	26
塩酸ドキシサイクリン	6	6	0	0	0
アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン	1	0	1	0	0
（参考）塩酸オキシテトラサイクリン	15	0	10	1	4

※県への聞き取りによると、「低い」とは「投与効果は確認されるが、再発までの期間が短い」ことを指す。

抗菌剤名	効果持続期間
エリスロマイシン	4～60日（報告が多いのは10日）
塩酸ドキシサイクリン	18日
（参考）塩酸オキシテトラサイクリン	2～7日（報告が多いのは7日）